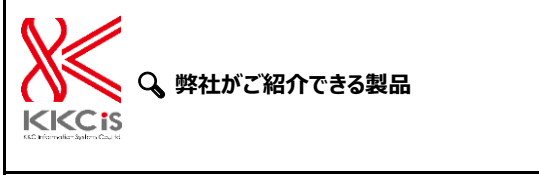


医療DXで変わる未来！2025年の最新トレンド

 医療DXとは	医療DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、医療や介護の現場にICTやAIなどの先端技術を取り入れ、サービスの質を高めたり、業務を効率化したりする取り組みです。 電子カルテの共有、オンライン診療、AIによる診断支援、遠隔モニタリングなどが代表的な例です。 これらの技術を活用することで、医療従事者の負担を減らし、患者さんに対しても便利で安心な医療が実現できます。
 国の取り組み	厚生労働省は「医療DX令和ビジョン2030」を掲げて、全国の医療機関や薬局、介護施設などが情報を連携できる仕組みづくりを進めています。 マイナ保険証の活用や電子処方箋の導入が進み、患者中心の医療が少しずつ形になってきています。2024年度には「医療DX推進体制整備加算」がスタートし、医療機関が体制を整えることで診療報酬の加算が受けられるようになりました。導入のハードルが下がり、現場でも取り組みやすくなってきた今、医療DXの活用を！
 メリット（医療機関）	医療機関にとって医療DXは、業務の効率化だけでなく、医療の質を高めるチャンスでもあります。 たとえば、電子カルテの共有によって複数の診療科や施設間での情報連携がスムーズになり、患者さんの診療履歴や検査結果をすばやく確認できます。AIによる診断支援や画像解析も、医師の判断をサポートしてくれる心強いツールです。さらに、診療報酬の加算制度があるので、導入にかかるコスト面の不安も軽減されます。
 メリット（患者）	患者さんにとって医療DXは、より快適で安心できる医療体験につながります。 オンライン診療が広がることで、通院が難しい方でも自宅から診察を受けられるようになり、時間や場所の制約が減ります。マイナ保険証を使えば、過去の診療履歴や薬の情報が医療機関で確認できるため、重複投薬の防止やスムーズな対応が可能になります。さらに、遠隔モニタリングや健康管理アプリなどを使えば、日常の健康管理もサポートされ、予防医療にもつながります。
 弊社がご紹介できる製品	タック総合健診システム、タック電子カルデシステムDr.F など 詳しくは「ソリューション・製品情報」へGo！
 31 今後の掲載	9月 医療DX推進の3つの柱 10月 令和8年度協会けんぽ改定について 11月 健診業務を見直して作業効率UP！ 12月 医療AIってなに？